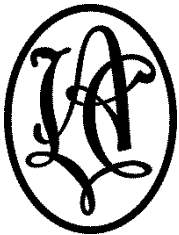
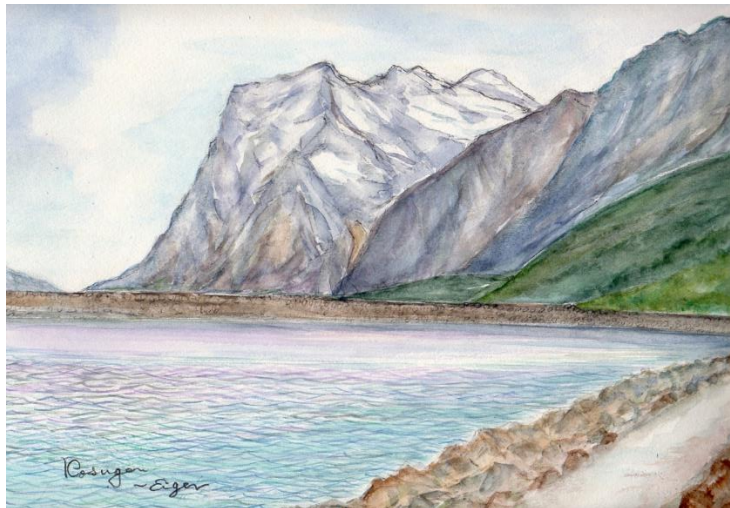


2021 第 52 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 3 年 1 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部

〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib#jac.or.jp

(表紙の絵) 「ヴェッターホルン・アイガー山景」水彩画 小菅 一弘

新年に思うこと

コロナウイルス騒動に世界が振り回された 2020 年。インターネットによる情報の拡散のごとく、あっという間に感染の波が全世界に押し寄せていくとは誰が予想できたでしょうか。自粛トンネルの出口はまだまだ見えず、しばらくは「with コロナ」という新語に従い生活全般を変えていかねばならないようです。山でもマスク、消毒、ソーシャルディスタンスに加え、楽しい宴会も縮小、実施時もマスクが必要な状況になってきました。息苦しい時代になりました。

しかしながら、見方を変えれば時代が大きな変革を



千葉支部長 松田 宏也

迎えているとも思えます。『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。』とは「種の起源」のダーウィンの言葉です。新たな生活様式に早く慣れ、適応しながら山に向かうことが新たな時代の登山を楽しむことにもつながると思います。

思えば今年の 1 年間は長かった。子供の頃は未体験のことが多く刺激を受けるので時間が長く感じると聞いたことがありますが、グレートヒマラヤトラバース参加とネパールのロックダウン下の軟禁生活、帰国後の自粛生活と、刺激がありすぎて私の時間感覚は子供の頃に返っていたようです。皆さんの時間感覚はいかがだったでしょうか。

2021 年の幕開けでやらねばならぬことは人生のゼンマイを新たに巻き直すことだと思います。皆さんの山が新たな発見の喜びの刺激に溢れる時間感覚の長い 1 年になることを期待しています。

「with コロナ」に慎重でありながらも、大いに山に登りましょう。(写真は朝日を浴びるジャヌー)

丑年とは・・・

牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物で、大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」というような年になるといわれています。

1,961 年ーアメリカの第 35 代大統領にジョン・F・ケネディが就任、「地球は青かった」の発言で有名なユーリイ・ガガーリン飛行士を乗せた宇宙船が地球一周に成功しました。日本では、坂本九さんの『上を向いて歩こう』が大ヒットしています。(年賀コラムより)

【 目次 】

・ 山行記録	p 2～5
霧ヶ峰・北横岳、ぐんま県境稜線トレイル、大水上山、大倉深沢	
・ スケッチ旅	p 5
・ 山行記録	p 6～13
佐渡島、信越トレイル、湯の丸・高峰山、黒川鶏冠山、浅間隠山・鼻曲山、八丈島・三宅島、三浦・大楠山、三浦・大楠山、御前山、自然学クラブ巡検⑤顔振峠・⑥筑波山、湘南アルプス、晩秋の屋久島	
・ あの日の山 塩澤 厚	p 12
・ こんにちは 藤木 亥三六	p 13
・ ウォーキングクラブ活動報告	p 13～14
・ 支部山行予定	p 14～16
・ 事務局からのお知らせ	p 16

霧ヶ峰・北横岳

梶田 義弘

山行日：9月5日～7日（晴れときどき曇り、一時雨）
 参加者：松田宏也（C L）、三田博（S L）、吉永英明、
 今井貴朗、三田芳江、柳川しげよ、平出正美、
 三品京子、小川和敏、梶田義弘
 タイム：5日 10:40 車山肩P→11:18 車山山頂→12:25
 蝶々深山→ 12:55 物見岩→13:45 八島
 ケ原湿原→14:55 沢渡→15:38 車山肩P
 6日 8:56 ロープウエー山頂駅→9:47 北横岳ヒ
 ュッテ→10:27 北横岳南峰→10:42 北横岳
 北峰→12:09 ロープウエー山頂駅
 7日 8:08 蓼科山登山口→8:33 ヒュッテアルビ
 レオ→8:42 八子ヶ峰東峰→8:58 八子ヶ峰
 西峰→9:51 蓼科山登山口

史上最大級の台風 10 号が九州に接近。大丈夫かと心配していたが、結果的には天候に恵まれ、夏から秋に移り変わる北八ヶ岳の自然を存分に楽しむことができた。

（5 日）非接触型体温計で検温し、全員異常のないことを確認。さらに密を避けるため 5 人ずつ 2 班に分かれて出発。なだらかな高原を歩き始めたと思ったらすぐに霧ヶ峰の最高峰、車山山頂に着いた。涼しい風、360度の眺望が素晴らしい。白雲に隠れ、遠くの山々がよく見えなかったのは残念だった。

八島ヶ原湿原では約 3 ㎞に渡って木道を歩き、キンソウやマツムシソウ、アザミ、サラシナショ



ウマなどの草花に心が癒やされた。それぞれの花や木に名前を書いたプレートが付けられているのは、親切なサービスだと思う。管理してくださっている人たちに感謝。夜入った蓼科の日帰り温泉では、日焼けした首や手がひりひりして痛かった。

（6 日）当初は麦草ヒュッテから茶臼山、縞枯山、北横岳を縦走するコースを予定していたが、前夜から明け方まで激しい雨が降り続き、リーダー判断でロープウエーを使った北横岳登山に変更。

標高 2,237 ㍎の山頂駅に着くと、目の前は溶岩台地に覆われた坪庭。散策路の途中から登山道に入り、ハイマツの中を歩くこと 40 分で北横岳ヒュッテに着き、ここで休息。リーダー松田さんは小屋の主人と顔見知りのようで話し込んでいた。ここで初めて雨に見舞われ雨具を着たが、わずか 10 分ほどでやみ、頂上に着いた頃には青空も。昼過ぎにはロープウエーで下山し、麓のそば屋で名物のそばとお酒をいただき、おいに盛り上がった。



（7 日）蓼科山登山口から、蓼科山とは反対方向の八子ヶ峰に向かって出発。ガスが立ちこめる中、往復 2 時間のハイキングを楽しんだ。下山したとたん雨が降り始め、一同「ラッキー」。

今回は吉永英明顧問の蓼科の別荘に 2 泊させていただいた。ありがとうございました。

50 歳未満は入会金と年会費 2 年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乘ります。特に若い方が入会しやすいように、50 歳未満の新入会員は入会金 1,000 円と 2 年間の年会費（正会員 1,500 円または会友 3,000 円）を免除します。

ぐんま県境稜線トレイル単独行 密本 織絵

!国内最長 100km 稜線トレイルを完全踏破!

山行日(天候): 9月17日~22日(17日~20日曇一時晴れ、21日曇・小雨、22日曇のち晴れ)

参加者: 密本織絵

タイム: 17日 4:40 鳥居峠→8:40 四阿山→14:00 毛無峠→16:50 万座温泉 18日 4:30 出発→6:50 横手山→10:20 赤石山→14:20 大高山→16:10 三壁山→17:00 野反湖キャンプ場 19日 6:00 出発→10:30 白砂山→14:45 ムジナ平避難小屋 20日 4:50 出発→8:10 稲包山→12:05 三国山→13:55 大源太山→14:40 平標山の家 21日 5:10 出発→6:50 仙ノ倉→9:40 万太郎山→13:20 肩の小屋→15:25 一ノ倉岳→16:10 茂倉岳避難小屋 22日 5:20 出発→7:45 蓬峠→12:15 朝日岳→14:30 白毛門→17:15 土合橋

ぐんま県境稜線トレイルは開通した当初から歩きたいと考えていたトレイルで、たまたま6日間休めそうだったので8月のお盆過ぎから計画を練り始めていました。本来なら、誰か他の人と一緒に行った方が安全なのですが、5泊6日となると一緒に行ける知人がいないのと、ソロの長期縦走は自分自身の判断力を知る事ができたり、スキルアップにも繋がると思い、ひとりで行く事にしました。



0日目

定時で帰宅後すぐに準備を済ませて、新幹線で上田駅に向かい、23時頃に駅前のホテルに到着。

1日目

上田駅前に4時に予約していたタクシーに乗り込みスタート地点となる鳥居峠へ。真っ暗な中、準備ができるまで明かりをつけて待っていてくれた運転手さんに感謝し出発。山頂手前の孺恋清水で水を補給、冷たくて美味しい。四阿山山頂は雲の中。浦倉山の分岐で、間違えて孺恋の方に降りてしまい40分のロス。幸いにして土鍋山までの道は笹刈りが行われており、予定より早く毛無峠に到着。ここから万座温泉まで約10kmの舗装路に、足の裏と肩が痛くなりスピード上らず、ギリギリの17時に湯の花旅館チェックイン。温泉と美味しいご飯を堪能し就寝。

2日目

4時30分旅館を出発。熊が出るとの事で鈴とコッヘルをストックで打ち鳴らしながら進む。国道に出るもガスの中。芳ヶ平の方から太陽の日が差し込むも、横手山に着く頃には再びガスの中。期待していたパン屋もまだ開いておらず、諦めて進む。赤石山から大高山までは笹藪が酷く、足元が全く見えない中、肩近くある笹をストッ

クでかき分け、足裏の感覚を頼りに進む。大高山からは笹はキレイに刈られていて、なんとか17時に野反湖キャンプ場に到着。道中誰とも出会わなかった。

3日目

この日は6時に出発。よく整備された登山道を歩く。稜線に出ると稜線から新潟側は真っ白な状態だったが、ムジナ平に近づくに連れ雲の切れ間から太陽の光が差し込み、熊笹が光って見える。真新しい避難小屋に着くとあたりは再び雲の中に。水場までは往復30分、笹を使い汲み取る。避難小屋は自分一人だったので、ゆったり使わせてもらった。



4日目

5時前に避難小屋を出発。三坂峠までは笹刈りがされていたが、朝露でよく滑る。そこから三国峠までは笹が増えたが、それよりも熊か鹿か獣の気配が3回程あり、慎重に進む。三国山から気持ちのいい稜線で久々のキレイな青空がお目見え。平標山の家に着くと人もそれなりにいて、テン場も埋まっていたので避難小屋の方に泊まらせてもらう事に。夜、救助者が運び込まれて来ましたが、命に別状は無く一安心。自分も気を付けようと気が引き締まる。

5日目

風が強く薄手のフリースにカップを着て出発。平標山、仙ノ倉までは風だけだったが、次第に雨混じりになり、避難小屋をハシゴ休憩しながら身体を冷やさないように進む。ありがたい事に知人が最後の谷川区間を一緒に歩いてくれるという事で、オジカ沢避難小屋で待っていてくれた。肩の小屋に着く頃には、雨も止みガスも取れてきて下の町が見える。何度も見た景色! 帰ってきた! ただいま! と思わず溢れる。茂倉避難小屋は人が多く、仕方なくトイレの前にテントを張り知人が持ってきてくれた肉や果物を堪能し就寝。

6日目

真夜中から風が強くなり、テントが飛ばんじやないかと思ってしまうくらいに…。内心出発するのすら躊躇しそうになったが、雨は降っていなかったので出発。それでも蓬峠近くになるとガスの中から抜けたのか、青空が白毛門の方までしっかりと見えて、ラストに



相応しい天気。初日から濡れていた靴も乾いてくれて、キツイ朝日岳への急登も、長い白毛門からの下りも気分が良い。最後は川に頭を突っ込みスッキリさせて土合橋に到着。

バリエーション豊かな天候、ルートに恵まれ、今年一番のチャレンジ登山になったと思います。(写真)
途中で、声をかけてくれた方、応援してくれた方、サポートして下さった方、ありがとうございました。



大水上山

山田 紀夫

山行日(天候) 2020年9月19日～9月21日 曇り雨
参加者: 山口文嗣 (CL)、三田博 (SL)、小川和敏、三品京子、
今井貴朗、三田芳江、山田紀夫
タイム: 19日: 7:30 津田沼駅→六日町IC→十字峡→16:20
グリーンビレッジ「たかはし」(泊)
20日: 6:00 宿→十字峡駐車場→8:30 栃ノ木橋→
ジャコ平→13:35 丹後山避難小屋(泊)
21日: 6:20 小屋→丹後山→6:45 利根川水源碑
→大水上山→丹後山避難小屋→12:20 十字峡駐車場
→20:30 津田沼駅前着

1日目はロープウェイを利用して、八海山の地藏岳までの往復を計画していたが、四連休の初日とGoToトラベルが本格化してきたためか、高速道路の大渋滞で、八海山はあきらめ翌日のアプローチの下見に行く。

2日目十字峡の駐車場には昨日の下見の時ほとんど無かった車がすでに数十台あった。林道ゲートをくぐるところで登山届を提出して三国川左岸の溪谷美を堪能しながら30分程歩く。心配していた天気も、少し風が強い予報だが雨は降らないようだ。栃ノ木橋を渡り50m程林道を進むと登山口。ここから小屋までは、標高差約1200mの急登が続く。まだ体が慣れていないため汗が出て息が切れそうになる。ここからの約1時間半が最も急登の場所だ。ブナの生えた細い尾根の急登を登り切るとやっと2合目。中ノ岳が遠くに見え始める。急登はまだ続く。09:55 標高1020m、五葉松の大きな木が現れる三合目付近、前面に中ノ岳の眺望を見ながら大休止。合目毎に石の標識があり休憩の目安になる。その後も重いザックを背負いひたすら我慢の急登を進む。

10:40 標高1,240m付近、4合目のジャコノ峰手前で小休止。見晴らしが良く丹後山の頂上稜線も仰ぎ見ることが出来た。ジグザグに登る道は少なく、ほとんどが直登に近い道になっていて、見上げると真つすぐに天を目指して登山道が続いている。上を見ると登る気力も失せそうになるので、できるだけ足下を見ながら登る。途中道の真ん中に熊らしい生暖かい大きな糞があり、全員に緊張が走る。熊に知らせるため、笛や大声を出しながら、早足で通り過ぎた。

13:35 稜線に出る。広々とした笹原の中にポツンと建てられた丹後山避難小屋が現れる。まだ新しい山小屋は2階建て

で中は広くトイレも綺麗、天水の貯水槽から水も得られて居心地は良かった。早速、1階に陣取り、各自分担して持ってきた食料や水、ビールなどを出し合い、直ぐに夕食準備に取りかかる。フライパンで山口氏特製野菜焼き肉とビールで乾杯。混ぜご飯とカレーの夕食で夜が更ける。夜はさすがに冷えてシュラフをかぶっても寒さを感じた。夜半には大雨が断続的に降り、明日の天気が心配になる。

3日目は04:30に起床、まだ外は暗い。その上、小雨。6:20出発。雨は上がっているが、深い霧が立ちこめ、周囲は見えない。



低い笹原が広がる稜線上の山道を数分歩くと、丹後山の頂上だ。さらに笹の道を少し歩き利根川水源碑に到着。深い霧で周囲は全く何も見えない。水源碑は自然石で作られた立派なものだ。水源はここから少し下ったところにあるが、霧と笹で覆われ見ることも行くことも出来ない。今回の登山の目的の一つが、利根川源流の写真撮影だったのだが、その目的を達する事が出来なかった。水源に近い側の笹の葉からしたり落ちる利根川の最初の一滴をカメラに収める。

水源碑から500m程歩くと1,831m大水上山山頂だ。小屋から大水上山までの熊笹の道は、まさに太平洋と日本海を分ける中央分水嶺であり、この山頂で東へ屈曲し平ヶ岳へと続く。晴れていれば、「はなこさん」の越後三山も見えるはずだったが。

後ろ髪を引かれる思いで、利根川水源碑を後に小屋に戻る。途中山道で何故か二匹のモグラと一緒に死んでいたのが印象的だった。どうして、二匹が同じ格好で同じ場所で死んでいたのだろう。考えると不思議なことだ。

下山は、登山口までほぼ一気下りとなる。急勾配が続き雨のため足場は滑る。細心の注意でもくもくと下山した。11:30 栃ノ木橋の登山道入口に全員無事到着しほっとした。12:20 十字峡駐車場へ到着、20分ほど先の五十沢温泉に浸かり登山の疲れをとり、帰宅の車に乗った。



大倉深沢

三田 博

山行日：10月11日～12日

参加者：三田博（L）、山口文嗣、三田芳江、小川和敏、三品京子

当初、秋田で沢登りの予定だったが、一泊で行ける吾妻連峰の大倉深沢に変更した。台風14号通過後の晴天を期待して紅葉の浄土平駐車場にやってきたが、残念ながら秋雨前線が居座ったまま。雨具を着込んでスタートした。日曜日の浄土平周辺は、雨でも紅葉目当ての観光客がいっぱいいるが、酸ヶ平、鎌沼を過ぎると人影は途端に



無くなる。姥ヶ原の分岐を姥沢に沿って谷地平へ下る。雨で足元が悪く、靴の中までびしょ濡れ。いい加減嫌になってきた頃、ようやく姥沢川畔に建つ三角屋根の谷地平避難小屋に到着した。浄土平から3時間近くかかった。

小屋の中は土間と板敷きで、きれいに掃除されていた。ビールを沢で冷やし、濡れたカップなどは小屋の中で吊るし干しする。一息ついたら、さっそく持ち寄った食材で宴会を始める。これが今回の目的でもある。サラダ、野菜炒め、焼き鳥缶詰など。メインはキノコの入った寄せ鍋。延々とお酒が無くなるまで飲み食い、そしてお喋りが続いた。

翌朝は鍋の残りで雑炊を作り、貸し切りで使わせてもらった

小屋を掃除して7時少し前にスタート。谷地平湿原はミニ尾瀬の風情で、湿原がすっかり紅葉して美しかった。湿原を横切り、木道が途切れた所から、いよいよ大倉深沢へ入渓する。歩き始めは河原歩き。青空も見えていたが、途中から雨がポツポツ降りはじめた。休憩を入れて3時間のゴーロ歩き、そのうちに大きな岩が目立ってきた。10時半頃、ようやく2段10mのF1に到着して大休止する。「あれ登れるの」と聞かれるが、登らないと帰れません。雨で水量は多いけど、取付いてみるとフカフカの青苔で階段状になっていて滑ることはない。初心者でもロープは不要、一人ずつ慎重に登る。その後も同じような滝が3、4つほど連続して楽しい。

滝登りが終わると笹原の源頭部に出た。最後にわずかヤブを漕ぐと、「魔女の瞳」五色沼の西岸台地の登山道へ出た。晴れていれば感動的な景色なのだろうが残念！細かい雨が降る中、一休みして一切経山（1,949m）まで標高差約170mのザレた登山道を登る。12時30分、風が強い山頂の標識で記念写真を撮り、急いで浄土平に下山した。



SACとは・・・

スケッチアート倶楽部の愛称です。昨年の秋、松田支部長からの提案で・・・山を卒業してからも自然を楽しめるように・・・との主旨から結成されました。現在、会員は14名で、2回/月の例会・補講の教室を設けています。これからは「2回/年のスケッチ旅をやりましょう」という話で盛り上がっています。（小川）

SAC「スケッチ旅」に13名参加 ― 講師 小菅一弘さん

山行名：西沢溪谷「スケッチアート倶楽部写生会の旅」

山行日（天候）：10月18日（曇り時々晴れ）～19日（曇り時々小雨）

参加者：松田宏也 小菅一弘 山崎完治 新井好夫
竹園清隆 藤木玄三六 上村紀子 湯下正子
香高真奈美 三田芳江 國宗文 小川和敏
宇津木仁典

すばらしかった！よかったネ！さいこう！とてもよかった！そう！ほんとによかった！クラブ員になってよかった！皆様から、このように称賛のお言葉が発せられた写生会の旅であった。クラブ発足してから一年余、初の県外「写生の旅」は松田支部長から発案。実施計画はクラブ員からの言葉を総合して、写生場所は山梨県西沢溪谷、宿泊は上村さん推薦宿で写生地の近くの「源泉かけ流し100%五つ星認定の湯宿」に決定

して、詳細は幹事役の小川さんに一任策定された。当日は松田支部長・小川さん・新井さん・竹園さんが運転して、参加者13人は分乗して「西沢溪谷」に向けて出発した。約180キロ余を走行して9:30に西沢溪谷駐車場に到着。体操後に緩やかな登りコースを約60分歩行し（写真）、「三重の滝」を写生地に決めた。（この先コース区間は路面工事のため歩行禁止であった）

水飛沫の滝の写生は難しい！！小菅先生から熱心な絵画指導の元、皆は静かに真面目・懸命な取組み姿勢になって写生を始めた。早めの15:00に今宵の湯宿に到着、男女別に部屋が用意され、その部屋は（特別）貴賓室であった。上村さんから新潟県産吟醸酒の差し入れがあって、チビリチビリしながら未完の絵画作成にとりかかった。宴会前には趣の異なる風情を楽しめる湯に浸り、いよいよ今宵の楽しみの宴会。上村さんの発

声で乾杯。(写真) 飲食がすすんだところでお一人お一人のお言葉が発せられ、松田支部長は「クラブ発足の源は、会費支払いの千葉支部の皆さんが一人でも『喜び・集い』の会に……」、小菅先生は「このように沢山な方々が参加しての写生会は初の試み、『構図とデザイン』の初歩として各人それなりに得るものがあつたのでは……」、皆様からは「賞賛のお言葉」が続いた。宴会後は貴賓室に集まり、各人の描いた絵を肴に酒・ワイ

ン・ビール等を飲みながら至福の時間は午前?時まで延々と続いた。

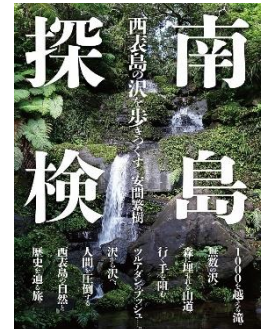
翌日は、近くの広瀬ダム湖と山々を背景に「写生会」がスタートしたが(写真)、「天気予報」がぴったりあたり正午過ぎに小雨が降りはじめたので、早めの帰途に。郷土食「ほうとう」を舌鼓して帰路に着いた。できの悪い小生が絵画クラブに入り続けていることに感嘆!! (宇津木仁典)



安間繁樹会員の新聞「南島探検」

千葉支部で西表島を歩いたのは2018年4月。「南島博士」の安間さんを先頭に、徒渉を繰り返して西表最高峰の古見岳へ。つるつるのナメの下降で、次々にスッテンコロリン転んで…。専門である南方の動植物から沖縄民謡まで、安間さんの幅広い知識に触れた楽しい山行でした。

安間さんの新刊書「南島探検～西表島の沢を歩きつくす」が、このほど出版されました。宣伝コピーは次の通り。「八重山の秘境、西表島。千を超える滝と無数の沢を持つ森。滝を登り沢から沢へ、分水嶺を越えて滝を降りる。立ち入る人もいない島の最奥地をゆく、西表島単独遡行記。沢の一覧、遡行図等の資料も収録」。西表の沢は、なかなか一般の登山者には行こうと思っても行ける場所ではありませんが、貴重な探検記録として読むだけでも楽しめると思います。あらためて、ヒルもハブも恐れないフィールド研究者の凄味が感じられます。あっぷる出版社 2,750円です。(M)



佐渡島

柳川 しげよ

山行日：10月22日～26日

天候：22日曇り 23日雨 24日雨 25日晴れ強風 26日晴れ

参加者：小川和敏(L) 平出正美(S) 節田重節(実家提供)
吉永英明 渡部孝雄 吉田望 三品京子 中場義
則 三田博 三田芳江 宮崎美千代 山本哲夫
柳川しげよ

タイム：25日ドンデン山荘出発(6:12)ー登山口(6:42)
アオネバ十字路(6:51)ーマトネ(7:38)ー小
股コル(8:14)天候悪化(8:30)風の強いところ
で退避(8:50)
強風地帯(8:56～9:05)最大風速15.7m/s+10m/s?
ー 真砂の峰(9:13)ー天狗の休場10:15)ー

あやめ池(11:13～11:18)ー金北山(11:58～12:30)ー白雲台(13:34)

私が初めて佐渡を訪れた時、カタクリの群落と足の踏み場もないほどに咲きほったシラネアオイで、まるで天国にでも招かれた気分が忘れられず、今回で3回目となった。しかし、佐渡の道のはなかなかの、難路だった。昨年春は、降雪による悪天候で断念。そして今回、秋の佐渡は、強風に苛まれた。

23日、前日から出発した車チームと電車チームがドンデン山荘で合流した。夜、外は、強い風と雨にみまわれ、まるで台風のようなだった。

翌 24 日、予報は雨にて観光に切り替え、佐渡の北から南まで満喫する旅へ出発した。まずは、石名の天然杉に向かった。地を這うように伏せた木々などが目につき、厳しい環境の中で生き抜いている様子がうかがえた。それぞれに象牙杉、



羽衣杉など名前が付けられていた。ニツ亀では、快晴、美しい白しぶきの日本海をみた。又、船大工や廻船主の家が残る町並み、宿根木では、三角家の前で、吉永小百合になった気分写真撮影＝写真＝。新穂湯上温泉に立ち寄り湯し、節田さん宅に向かう。

25 日晴れ、外は真つ暗な中、節田さん宅出発。6 時ドンデン山荘着、6 時 20 分山荘出発。予報通り強風だが、黄色く色づくブナやナラにみとれながら歩き、7 時 40 分マトネにさしかかった。去年はここで降雪の為撤退した。その時のリーダーの松田さんの「撤退した場所が頂上」の言葉が頭をよぎった。今年はこのを超えられ、嬉しかったのは束の間、山は素晴らしいが恐ろしいところを知らされた。

小股沢のコルを通過した頃から急に、ヒョウが降りだし、あたり一面が小さな氷でみまわれた。雨具を着る暇もないほど天気の変わり様は凄まじかった＝写真＝。そして襲ってきた強風。ザレ場を通過している最中だった。最初

は、腰を曲げ老人スタイルへ、次は、四つんばいの赤ちゃんになり、自分の命は自分で守るの一言だった。アヤメ池から、紅葉に染まった山容を見ると、あの強風が遠い昔の様だった。登り初めて 5 時間 30 分、金北山の頂上に到着。記念写真を撮り、美しい紅葉、キバをむいて私達をむかえてくれた金北山が愛しく何度も振り返りながら長い砂利道を、白雲台まで下った。



悪天候の中、安全に導いて下さったリーダーをはじめ、実家を提供して下さいた節田さん、ありがとうございました。



(節田さん曰く・あの強風は富士山並み-とのことでした。)

信越トレイル

湯下 正子

山行日 (天候) : 10 月 23 日 (雨) 24 日 (曇のち雨) 25 日 (曇) 26 日 (晴)

参加者 : 松田宏也 L、山崎完治、湯下正子

タイム : 24 日・関田峠 7:30～牧峠 10:15～花立山 11:08～津ノ俣峠 12:20～伏野峠 15:40 (セクション 5)

26 日・万坂峠 7:50～袴湿原 8:40 (朝食)～袴岳 9:33～万坂峠 11:00

23 日、飯山駅 9:43 着の新幹線下車、前日から現地入りにしていた松田さんのお迎えで民宿へ行く。あいにくの雨で袴岳山行は中止。富倉地区へヤマゴボウの葉の繊維をつなぎにしたコシの強い蕎麦を食べに行った。一緒に出された笹ずしも名物だそうで、思わずカメラを向ける程可愛いお寿司で美味しかった。帰り道は斑尾高原をドライブ、見事な黄葉に興奮。

24 日、午後から雨予報のため朝食をお弁当に変えてもらって民宿を 7:00 出発。民宿のご主人が一昨年の到達点の関田峠まで送ってくれた。見覚えのある峠で懐かしかった。今日はここから伏野峠までの予定。梨平峠で朝食をとり昨日の雨でツルツル滑る登山道を慎重に歩く。新潟側の展望が開けてくると日本海が望める。柏崎の原発も見えて気分よく順調に歩いていく。途中、牧峠から上がってきたというグループに会い「この先滑りますから注意して」と言われたがそれ程とも思わずにアップダウンを繰り返していたが、言われた通り長く滑りやすい下りとなった。一步一步、確実に足場をこさえながら下る。更に長い下りを繰り返してやっと牧峠に着き一息ついた。牧峠まではブナ林が雪の重さで太く横に曲がっていたが牧峠を越えてからのブナ林は高く上にまっすぐ伸び

ていてそれぞれが青空に映えて綺麗だった。程無く花立山に到着。広い頂上でゆっくり昼食をとった。次の宇津ノ俣峠に着くとほぼコースタイムで歩けていることから先が見えたような気分になっていたが、そんなに甘くはないのが信越トレイルだった。歩きだすと予報よりも早めに雨がぽつぽつしてきた。急いで雨具をつけて濡れた落ち葉の上を注意しながら



歩く。どこまでもアップダウンが続く。ツルツル滑る足元に一歩も油断できない。悲しい思いになってきたが「頑張らなければ」と自分に言い聞かせてやっと伏野峠につ

いた。本当に伏野峠は遠かった。「お疲れさま！」と言って民宿のご主人が迎えてくれた時は着いた嬉しさと安心感でいっぱいになった。「関田峠から伏野峠のセクションが一番きついと言われています」とご主人から言われ、改めて一昨年のコースよりも厳しいコースだと思った。

25 日、天気予報が曇り雨だったので観光に切り替えた。野尻湖、戸隠奥社のドライブで昨日の疲れが癒された。

26 日、初日に予定していた袴岳へ。赤



日本山岳会千葉支部

池方面が通行止めのため万坂峠に車をおき出発。袴湿原でのんびり朝食をとり袴岳の登りにかかった。ゆったりした登山道を登っていくと見事なブナ林が続いた。「このブナ林を見せたかった」と松田さんが言われるように言葉に表すのが難しいくらい大木のブナ林が見事だ。このブナ林の黄葉を三人で見ているのがもったいないくらいの美しさだった。

湯の丸山・高峰山

山崎 完治

山行日：10月10日（土）～10月12日（月）

天候：10日（雨）、11日（曇りのち雨）、12日（曇りのち薄日）

参加者：1 10日～11日松田（L）・坂上・湯下・藤木・山崎&松田友人2人（小山・笠原）

2 12日松田（L）・坂上・湯下・山崎・小沢

タイム：1 湯ノ丸山山行（10月11日）

地蔵峠（リフト登山口）8：20ー湯の丸山南峰

10：20ー鞍部（中分岐）地蔵峠13：00

2 高峰山山行（10月12日）

登山口8：20ー山頂9：30ー登山口11：00

台風14号が関東地方に接近する中、台風一過の晴天を願い決行、10日午前11時雨の中日大WV山小屋に全員集合した。昼食後も雨が止まずこの日の計画を変更して、早めの団欒を決め込む。

11日、車2台に分乗し地蔵峠駐車場へ。スキー場のリフトに沿って牧草の中を牛のお土産をよけながらの登り、リフトの終点からフラットな散策道を進み、ガスで山頂が確認できないまま紅葉の中にリンドウの花を見ながら岩のゴロゴロした急坂を登りきると円形岩場の湯ノ丸山南峰である。北峰はガスで確認できない。北峰からの眺望も望



初日に雨で来られなかったけれど最後に袴岳に登り、大木のブナ林を見ることができ、疲れが一気に消えてしまうほど感激した。今回は踏査できなかったが伏野峠から天水山までのコースは次回のお楽しみとなった。それにしても今年の黄葉はひと際見事だった。

めないと判断、雨衣を着用して烏帽子岳を目指す。南峰から西側をほぼ一直線の急坂を下り、湯ノ丸山と烏帽子岳の鞍部（中分岐）で記念写真、手作りの「ヒジキ入りイナリ」をほおぼる。ここからもガスで烏帽子岳山頂は確認できず、頂上からの眺望も期待できないと判断し下山することとした。湯ノ丸山の巻道ではほぼ水平道から中分岐を経由し地蔵峠に下山した。ここで3名の帰宅組を見送り、我々は高峰高原ホテルの温泉で疲れをいやした。

12日、前日の夕方から特別参加の会員の小沢さんを含む5人で山小屋を8時出発、登山口の鳥居から、右手にある「アサマ2000スキー場」を横切りようにカラマツ林の中を進むと高峰温泉からの合流点「粒ヶ平」である。なだらかな錦秋の山稜を登る。途中「白玉の木」の白い実を見つけ、松田さんから「木の実」を食べてみてとの声に、小沢さんが試食した感想は、「甘いもの食べたあとだから、無味だが、柑橘系の香りがした。」とのことであった。シャクナゲの雌花の丸みを確認、来春の開花を思い浮かべつつ進むと露岩の間に祭られた高峰神社で、神社裏の小高い岩峰が高峰山山頂である。残念ながら北アルプス連峰を確認することはできなかった。山頂で記念撮影後下山した。



黒川鶏冠山

高橋 琢子

山行日（天候）：11月3日（火）（晴れ）

参加者：三品京子（L）、三木雄三（SL）、高橋正彦、吉永英明、山口文嗣、梶田義弘、平出正美、渡部孝雄、吉野聰、山岡磨子、高橋琢子

タイム：塩山駅9：00（タクシー）→柳沢峠9：35→横手峠

11：10→黒川山12：05→（昼食）→鶏冠山12：37→柳沢峠

15：00（タクシー）→塩山駅

朝までの雨が嘘のように晴天となった塩山は、紅葉の真っ盛り。10年ぶりの柳沢峠では、カラマツの黄葉の出迎えを受けた。

歩き始めると直ぐに「きれい！」「素晴らしい！」「いい香り！」「気持ちいい！」の歓声があちこちからあがった。ミズナラやカエデ、カラマツなどの落ち葉が山肌を埋め、足元からザッザッと枯葉を踏む音がする。1時間ほど歩くと、様子が一変。苔むした大きな岩が、谷に向かって流れ落ちる



ようにゴロゴロと出現した。「これは岩塊斜面と言って、1万年前の氷河地形の名残りだよ」と三木さん。12：05黒川山到着。昼食後鶏冠山山頂へ。青空にピラミッド型の大菩薩嶺が眩しかった。「最高に気持ちいい山だったね～」とは正彦さん。風が吹いた。カサカサカサ...と落ち葉のシャワーを浴びた。

浅間隠山・鼻曲山

渡部 孝雄

山行日(天候): 11月8日: 晴れ, 9日: 晴れ
参加者: 松田宏也、中場義則、山崎完治、坂上光恵、湯下正子、渡部孝雄

タイム: 浅間隠山 二度上峠P 発 10:55~浅間 13:00(13:25)
~二度上峠P 14:40

鼻曲山 金湯館 8:30 発~鼻曲山 11:40(12:15)~
金湯館 14:45

1日目 渡部車 4:30 出発、松田宅、山崎宅、木下駅 7:00 に寄り 4 人をピックアップして、牛久阿見 IC から高速道路に乗る。途中、寄居 P で中場車と合流し二度上峠に向かう。峠には 10:45 に着き、準備体操を行い出発する。登り始めは樹林帯の沢沿いに登る。まもなく稜線に出て標識に従って進むと坂は穏やかになる。カラマツやツツジなどに囲まれた道を進むとナラ林の中の広いところに出た。そこで昼食休憩を約 30 分取り 12:17 に出発する。尾根づたいに登るとクマザサが多くなり道はつづら折りに登り出し急になる。そこを登りきれば浅間隠山の山頂に出る。山頂は展望がよく、西には浅間山、高峰高原、四阿山、南には鼻曲山、角落山、妙義山などの山々を見渡せる。山頂を 13:25 出発し、昼



食した所で 5 分休憩し二度上峠に下山する。体操を行い 15:05 に金湯館に向けて出発する。宿が鼻曲山の反対側になるため、宿着が 16:55 になってしまった。でも、途中の碓氷峠のもみじの紅葉が最高に綺麗だった。金湯館は、明治 17 年創業で、伊藤博文、勝海舟、与謝野晶子らが、訪れていたようです。山奥の宿ですが電気が通っており、食事・対応が良く又きたい宿となりました。

2日目 6:00 起床し 7:30 朝食、金湯館の玄関前で準備体操を行い 8:30 出発する。登山口から明るい林の中を進んで行くと落ち葉が道を分厚く覆っていて踏みしめて歩くのがとても気持ちよかった。ブナの中の綺麗なもみじの紅葉を見ながら清々しい気持ちで登り 9:20 に 5 分の休憩を取る。ここから先は急峻な谷、狭い道、急勾配の上り下りとなった。勾配が落ち着いた広いところで 10 分の休憩を取った。この先は頂上まで急騰で途中、ガレた場所にロープが張ってあったが頑張って登り 11:40 に登頂する。展望は木で良くない。12:15 下山を開始、来るときと同じ場所で 2 回休憩を取り、14:45 に宿に到着する。横川で峠の釜めしをお土産に買い帰路についた。



八丈島・三宅島

今井 貴朗

山行日(天候): 11月13日(金)~15日(日)、曇りのち晴れ

参加者: 山田紀夫(CL)、柳川しげよ(SL)、吉永英明、小川和敏、三田博、三田芳江、吉田望、渡辺信一、鎌谷繁、今井貴朗

タイム: 羽田空港(7:30)→八丈島空港(8:45)→八丈富士登山口(10:10)→剣が峰(11:15)→登山口(13:30)→見晴らし温泉(14:55)→宿(17:00)

2日目: 八丈島発(9:45)→三宅島着(14:00)→溶岩跡・鉄砲場(15:50)

3日目: 宿発(7:55)→ひょうたん山(9:00)→三七山(9:45)→サトウ岬→三宅島発(13:50)→竹芝桟橋(19:55)

八丈島を目指して早朝に羽田空港集合、約 45 分の空旅で無事八丈島着。東京から約 200km 離れた南海の離島とはいえ、さすがに飛行機は早い。レンタカーで八丈富士登山口に向かうが、空はどんよりとして頂上が見えない。皆で準備体操して登り始めるが延々と石の階段が続く登山道、標高差 300m 程度を登り詰めた火口端の分岐はガス中である。此处から火口をぐるっとお鉢巡り約 50 分の行程で、途中最高峰の剣が峰までは約 15 分。雨後のぬかるんだ登山道と格闘

しながら剣が峰で集合記念撮影、風で時よりガスが飛ばされ火口や八丈小島の風景を楽しみながら到着地点の分岐着。此处から火口内を下って神社へ 10 分程度、神社から見る火口壁の迫力に圧倒される。分岐点に戻り下山してお楽しみのみはらし温泉へ。天候も回復して秘境・青ヶ島が見える絶景の露天風呂でさっぱりと汗を流し、裏山の滝(滝裏側に回れる)等の名所見物して宿へ。



日本山岳会千葉支部

2 日目は晴天の中、三宅島へ船で移動する。当初計画であった御蔵島に寄港したが秘島に相応しい迫力と威厳、ぜひ行きたい島である。昼過ぎに三宅島着後、荷物は宿に預けて溶岩台地見物、集落全体を飲み込む溶岩流の凄まじさを実感できる光景に驚かされる。そう言えば何度も爆発した雄山は今でも登山禁止、本日も雄々しい山容を見せてはいる。見どころも多い中、バスの時刻となり宿へ。ちなみに内／外回りそれぞれ5便ある島内巡回バスは時間さえ合えば便利である。

3 日目は引き続き晴天の中、海岸沿いにトレッキング、溶岩流に埋もれた椎取神社を見学しながら隣に再建された鳥居越しに見る雄山の姿が美しい。更に碧さがまぶしい海を見ながら進むと、1,940 年の噴火で形成されたひょうたん山着。低い山だがむき出しの火口壁沿いに登る景色が海の藍さと相



まって美しい、非日常的な景色に見とれてしまう。振り返れば雄山がその独特の姿を見せている。度重なる噴火で麓には低木林の中に立ち枯れが点在する草原の山の雰囲気だが、溶岩流の模様がその独特な姿を形成している。更に先に進み、1962 年噴火形成の三七山を経て白い灯台のあるサタドー岬着。絶壁の続く藍い海の中、気持ち良く浮かぶウミガメ数匹みつけ、皆で歓声を上げながらその光景に見とれてしまう。

島旅もそろそろ終わり、島内巡回バスで出発港へ戻り出帆までそれぞれ思い思いの時間を過ごす。いよいよ乗船となり3日間最後の船内宴会(10名定員船室貸切状態)で盛り上がりながら竹芝桟橋着。楽しかった3日間の思い出を秘めながら、それぞれの帰路についた。

三浦・大楠山

松本 さゆり

山行日(天候)：2020 年 11 月 14 日(土) 晴れ

山行日(天候)：2020 年 11 月 14 日(土) 晴れ

参加者：松田宏也 (CL)、藤木玄三六 (SL)、湯下正子、新井好夫、杉本正夫、

黒田正雄、松本さゆり (記録)

タイム：大楠山登山口 9:40→大楠山山頂 11:50→前田橋側登山口 14:16

雲1つ無い青空で絶好の山日和。逗子駅からバスに乗り30分で大楠山登山道に到着し、準備運動をして大楠山を目指す。見事な皇帝ダリアや、この季節特有の常緑樹と紅葉した葉のグラデーションの木々を見上げながら大楠山へ到着。昼食後、数段上った見晴台では360度の絶景が望めた。遠方には横浜

ランドマークタワーや三浦半島、煌めく海のその先に江の島、可愛らしく雪が積もった富士山、房総半島や富山。整備された下山道をゆっくりと落ち葉を踏みしめ、カサカサ音や鶯の鳴き声の今ならではの効果音を楽しみ無事に前田橋に到着した。今後ソーシャルディスタンスやマスク着用を気に掛けない山行を願いつつ桜の季節には是非再訪したい。



御前山

山本 哲夫

参加者：山本哲夫 (L)、宮崎美智代、今井貴朗

山行日：11 月 21 日(土) 天候 快晴

タイム：新宿駅 7 時 44 分発、奥多摩湖 9 時 36 分、登山口 10 時 00 分、展望台 11 時 2 分-18 分、惣岳山 12 時 24 分、御前山 12 時 40 分-13 時 30 分、オオダワ 14 時 42 分、愛宕神社 16 時 29 分、登山口 16 時 47 分、奥多摩駅 16 時 53 分、16 時 54 分発東京行



ホリデー快速 2 両目に乗り奥多摩駅到着後真向かいのバスに乗り。奥多摩湖でカメラを離せない。奥多摩湖の青い水面と紅葉が少し残る尾根を辿ると数十分で

汗ばんだ。展望台に到着。ムービー撮影が終わると他のグループは既に出発していた。

大きな岩を越え、急登を登りきると御前山でなく惣岳山だった。記憶は当てにならない。御前山手前の富士山を望める

ベンチで昼食休憩、EPI を着火。御前山東側は樹木が刈り込まれ見通しが良かった。ムービーを撮影。オオダワまで急な下りが数か所、登りも数回あり1時間と少しかかった。オオダワで進路を見直し、大岳山を鋸山尾根より奥多摩に変更した。鋸山直下の急な梯子は気を引き締めて下った。樹林帯の下り、岩場混じりの急な尾根を慎重に急ぎ下る。宮崎さんと今井さんも後ろにびったり付いている。すでに太陽が御前山尾根に掛かり始めていた。尾根を下り林道に、愛宕神社下の岩場混じりの登山路は暗かった。有名な長い急階段は手すり力が強かった。



登山口 16 時 47 分。奥多摩駅に着くと発車 1 分前。佐渡金北山で痛めた左足をいたわり階段からホーム、空いている最後尾一つ前車両に座った。

自然学クラブ巡検

三木 雄三

第5回巡検、顔振峠で「地すべり地形」を学ぶ

10月3日(土)、義経伝説の「顔振峠」で地すべり地形を見学した。飯能から秩父の間を奥武蔵と呼び、この日も伊豆ヶ岳や子ノ権現、武甲山などの展望が広がった。峠の名は東北へ向かう源義経一行が何度も振り向き名残を惜しんだという伝説に由来。茶屋があり、参加者20人は山々の展望と名物の「うどん」に舌鼓。



吾野駅で下車。川岸の岩場に根を張ったケヤキが、かつて

第6回巡検、筑波山の「自然」を学ぶ

11月21日(土)、「西の富士・東の筑波」。日本一低い百名山の筑波山だが、その魅力は計り知れないものがある。今回のテーマは「岩」。まず向かったのは男体山をぐるりとひと回りする自然観察路。連休で大混雑の御幸ヶ原をしり目に、巨岩たちと対面する。

山頂付近の黒っぽい岩は「斑レイ岩」。マグマが地下深いところでゆっくりと時間をかけて冷却され固まった。御影石の石材となる同じ深成岩の花崗岩に比べ、より硬く、風化に強い＝写真＝。筑波の斑レイ岩は7千万年前のものだ。また、富士山を乳幼児に例えるなら筑波山は伝説の「仙人」に匹敵する高年齢の山(残丘)だ。

男女川の源流に立ち寄った。筑波の別名「紫峰」の名を冠したスギの巨木も見つ。平安時代、筑波は男女の出逢いの場としての「歌垣」がたびたび開かれた。万葉集にも恋の歌がたくさん載っている。「いうならば元祖『合コン』の山だなあ」と誰かさんが言った。

雪をかぶった白根山など日光連山、高原山も形が良い。磁気を帯びた斑レイ岩や花崗岩の奇石に持参のマグネット

の秩父往還「吾野宿」の入り口。通りには宿場の面影が色濃く残る。ノコンギク、ツリフネソウの咲く山道を登るとスプーンで削り取られたような半円形の南斜面が見えてきた＝写真＝。典型的な「地すべり地形」。地盤の中に水を含むと強さが低下する粘土層など軟弱な層が存在する斜面では豪雨など過剰な地下水の供給が生じ、また、地震などで斜面のバランスが崩れ地すべりが起きやすい、とされている。そんな地すべり地形の土地にも人が住んで集落が生まれ、斜面を横切る道路が出来て、サイクリングする人の姿もあった。

かつては湯が地上に出たというユガテの山上集落にはシユウメイギクが咲き、カヤが風に揺れていた。自己紹介で会友の廣村さんは「色々と分かって楽しい。次回も参加したい」と話し、石に詳しい山岡さんは今回もチャートを見つけてご満悦な様子。

参加者：新井好夫、梶田義弘、鎌谷繁、国宗文、香高真奈美、塩塚生二、杉本正夫、節田重節、高橋琢子、竹内進、竹園清隆、中場義則、廣村恵美子、松本さゆり、宮崎美智代、山岡磨由子、山口文嗣、吉田望、吉永英明、三木雄三(L)。

が吸い付く。これが自然学の醍醐味。山岡さんの紹介で参加した黒住さんは「山がこんなに面白いとは思わなかった。」とニコニコ顔。午後3時の日ざしに霞ヶ浦の波高がきらめいていた。

参加者：新井好夫、梶田義弘・天兵、鎌谷繁、黒住清美、塩塚生二、高橋琢子、竹内進、竹園清隆、中場義則・久美、廣村恵美子、森川雅子、山岡磨由子、山口文嗣、三木雄三(L)。



湘南アルプス

塩塚 生二

山行日(天気)：11月28日(土) 晴れ

参加者：松田宏也(L)・節田重節・塩塚生二・香高真奈美・松本さゆり

タイム：JR大磯駅(10:00) 高来神社(10:30) 高麗(11:00) 浅間山(11:20) 湘南平(12:10) 大磯駅(14:00)

2年前の春以来、2回目の湘南アルプスを登る機会を得ました。

JR大磯駅から国道1号線沿いを歩き、旧東海道松並を歩くと、歌川広重の錦絵「東海道五十三次 大磯 虎ケ雨」の絵があり、松並みが穏やかな風景でした。住んでいる人達から「おはようございます」の挨拶があり、豊かな住民が多いと

日本山岳会千葉支部

感じました。少し歩くと、高来（たかく）神社です。明治になって高麗（こま）神社から改名されたとのこと。高来神社から裏手の女坂を通り高麗山から湘南平を目指します。高麗山（167.3m）は、スダジイ、タブノキ、など常緑広葉樹にケヤキ、ムクノキ、イロハモミジなどの落葉樹が混ざっています。

比較の見通しのきかない細い登山道を歩いて来ましたが、パッと視界が開き秋の柔らかな陽射しに包まれた美しい窪地に出てその美しい光景は息を呑むほどで、春には桜の木が多いので今以上に綺麗な所でピクニックの家族食事など楽しいだろうと思いました。皆さんと一休み。さらに浅間山と

登り湘南平（181m）に到着。この日は晴れで、江ノ島、大島、大山そして富士山、その全てがよく見える最高の秋晴れで食事美味しかったです。楽しい素晴らしい一日でした。



突然ですが、私は誰でしょう？ ヒント；数十年前の写真です。

???・・・???・・・???

穂高北尾根にて、'53.8



あ の 日 の 山

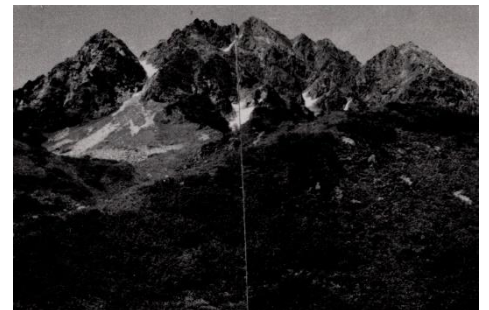
奥又白谷の夏

1951（昭26）年から1955（昭30）年にかけて4回の夏、穂高の奥又白の池にキャンプを張っていた。当時、夏季に隣の涸沢にテントを張っていたパーティはいくつかあったが、奥又白谷には殆どいなかった。ここをベースにすれば、前穂高の東、北の壁をはじめその北尾根の3峰、4峰の東側の壁の登攀を堪能できるが北穂高側の滝谷等の登攀にはアプローチが一寸遠く、その点から見れば涸沢のベースの方が行動範囲の点で利点はあった。私は、すり鉢底のような涸沢のキャンプ・サイトより標高2530mの又白の池のほうが好きである。東の大滝山、蝶ヶ岳、常念岳と連なる前衛の山並みからにじみ出る日の出、振り返るとモルゲンロートに彩られた明神岳、前穂高から北尾根の峰々の景観はいまも心に浮かぶ。

私等の時代、日本の山の主要な岩場と言えば、穂高、剣、谷川、北岳等が挙げられるだろうが、私は、壁の登攀の点では上述の前穂高の奥又白谷側の壁が最高だと思っている。ただ当時は、登山靴はナーゲル・シュー（鉋靴）が主でヴィブ

ラム底の靴はぼつぼつ出始めていた頃、更に、私が所属していた山岳部では未だ、アブミ等は人工登攀具として使用を禁じられていたので登攀ルートは必然的に限られた。当時の名だたる社会人山岳会でも、地下足袋に雪渓では4本爪アイゼンといった足回りで穂高に来ていたが、岩場ではその方が登り易かったかも知れない。私等は、穂高の山も将来のヒマラヤへの訓練の一つと考えていたので、沢登り以外には地下足袋わらじは履かなかった。前穂高の東壁（A,B,C フェース）、北壁、北尾根の3峰右岩稜、4峰正面壁の明大ルート、北條・新村ルート、甲南ルートなども長野県北部での割合大きな地震の影響で岩が脆い所が出たらしく登攀されなくなると聞くと残念である。

以上



奥又白の池より、右から前穂高北尾根
4峰、3峰、2峰、1峰（前穂高山頂）

〔1953（昭28）年8月、服部秀夫氏撮影〕

正解は、「塩澤 厚」さんでした。まさに「紅顔の美少年」で、ビックリ！

晩秋の屋久島

平出 正美

参加者：小川和敏 (L)、三品京子 (SL)、三田芳江、吉田望、平出正美

山行日：11月19日～24日

19日：羽田空港より鹿児島空港へ。天文館の小川さん行きつけの大衆食堂で乾杯。

20日早朝のジェットフォイルで屋久島入り。島内をドライブ、固有種の植物・屋久猿・屋久鹿とふれあった後、小谷ヶ滝へ。標識も無い入り口から薄い踏み跡を探りつつ進むこと1時間余り、大岩の向こうに滝を見ることができた。戻ると、早くも山ヒルの被害者が発覚。

21日：4：00に宿を出て荒川登山口5：30発、ヘッドランプを頼りにトロッコ道を歩き出す。整備された道で歩きやすいが、何せ縄文杉までが果てしなく遠い。途中のウィルソン株では株の中に入り天を仰ぐと、ハート型の青空と木々に感動、縄文杉10：00着。屋久杉を多く見てきたが流石に別格であった。少し先の四阿で昼食休憩、荒川登山口に14：40着し、午後一番15：00のバスで自然館へ。

22日：軽いメニューということで白谷雲水狭に向かう。

登山口7：50発、苔むす森「もののけ姫」の世界に浸る。太鼓岩10：00着。帰りは奉行杉コースを渡渉しながら白谷雲水狭登山口12：30着。

23日：メインイベント

の宮之浦岳登山です。淀川登山口6：00発、淀川小屋で休憩後、途中の花之江河の湿原で癒され、栗生岳10：30を経て宮之浦岳山頂10：50着。風は強いが青空にヤッター！と皆で声を上げた＝写真＝。昼休憩後下ゆつくりと下山。花之江河13：30、淀川登山口15：45着。2班に分かれた後のグループもほぼコースタイムで16：00に合流。当然、夜は山頂の絶景を肴に安房で祝杯でした。

24日：島内一周して安房港から離島。雨の屋久島と覚悟をしていたが晴天の4日間でした。今回の山行で屋久島の基本は学びましたので次回は応用編（春の屋久島）を学びます。(L) よろしく願いいたします。



こ ん に ち は

「千葉支部との出会い」

16563 藤木 玄三六

私が日本山岳会に入ることになったのは、2015年の職場の同僚との飯能の伊豆ヶ岳の山頂で偶然山岳会のメンバー方達と出会い、集合写真を頼まれて撮った際にお話をしたこと



がきっかけとなります。その時は登山経験というのほとんどなく、年に数回仲間と日帰りに山に行く程度の山行をしておりましたが、そこで会へのお誘いを受け休山会という山岳会の同好会に入会を致しました。そこで山行を重ねるに連れ、さらに様々な山に行ってみたいという想いが芽生え、また年次晩餐会での松田支部長との出会いから支部へのお誘いを受け、去年の12月に日本山岳会の正会員となりました。

ました。

私の今までの山行については、日帰り山行が中心で、以前住んでいた神奈川で丹沢を中心に、奥多摩の山などによく行っていた程度でした。最近になり千葉支部の山小屋泊の山行にも参加したり、徐々に登山の幅を広げていっている所です。

私は登山の基礎的な知見もない為、支部の経験豊かな諸先輩方と山行に行くことで個人山行では会得することがない知識や経験をたくさん得ることができるのがこの支部に入って1番の収穫だと感じています。さらに人の繋がりという部分において、今までの人脈では交流できない様々な方々と接することでたくさんの学びや刺激を得ています。まずは基礎を積み、基本的な知識や経験を蓄え山登りのベースを培っていきたくと考えております。支部の幅広くたくさんある山行の中で、色々な山行に参加してみるつもりです。その中で自分に合ったものや最も興味を抱いたものを追求していくのも良いかなと考えています。

今後は冬山、地方への遠征登山などチャレンジをしていき自分なりの山登りをしていきたいと思っています。

(写真は早池峰山にて)

ウォーキングクラブ活動報告 (5月～10月)

- ① 6月6日(土)10：30～14：00 北習志野・坪井足馴らしウォーク 天候 曇
コース：北習志野駅ー北習志野近隣公園ーせせらぎの道ー坪井近隣公園(昼食)ー西光寺ー船橋アリーナー北習志野駅(解散)
参加者：吉田、小林、塩塚、高橋正、宇津木、新井、香高、杉本、8名
- ② 6月20日(土)9：00～14：30 桜でつなぐ手賀沼と東京湾③ 天候 晴
コース：滝不動駅ー海老川水系・真間川水系分水界ー二和川源流ー真間川水系・印旛沼水系分水界ー鎌ヶ谷大仏ー第3新田公園ー分水嶺(界)モニュメントー大津川源流ー鎌ヶ谷市制記念公園(昼食)ー北部公民館ー六実駅(解散)
参加者：吉田、小林、塩塚、高橋正、宇津木、高橋琢、新井、柳川、国宗、香高、杉本、11名
- ③ 9月6日(日)10：00～14：00 桜でつなぐ手賀沼と東京湾④ 天候 曇・雨

日本山岳会千葉支部

コース：六実駅－北部公民館(WC)－佐津間幼稚園－大津川土手－福寿院－善龍寺－沼南の森神明神社(昼食)－塚崎運動場(WC)－ニッカウキスキー柏工場横－増尾城址総合公園(WC)－新柏駅(解散)

参加者：宇津木、中場、塩塚、新井、高橋正、竹園、小林、杉本、8名

④ 9月13日(日)10:00～14:00 桜でつなぐ手賀沼と東京湾⑤ 天候 曇・雨

コース：逆井駅－ニッカウキスキー柏工場横－大津川土手－大津川河口ヒドリ橋(WC)－北千葉導水ビジターセンター(WC)－柏ふるさと公園(WC)－柏公園－柏駅(解散)

参加者：高橋正、宇津木、小林、塩塚、杉本、5名

⑤ 9月20日(日)9:30～13:30 成田空港・新勝寺② 天候 曇一時雨

コース：空港第2ビル－第3ターミナル前－東峰神社－東雲の丘(WC)－取香川－根本名川合流点－成田山公園(WC)－成田山新勝寺(WC)(解散)

参加者：香高、柳川、宇津木、塩塚、梶田義、梶田天、節田、吉田、新井、高橋琢、大浦、鎌谷、杉本、13名

⑥ 10月4日(日)9:30～14:30 行徳・篠崎地区 天候 曇時々晴

コース：行徳駅－権現道－常夜灯公園(WC)－権現道－徳願寺－豊受神社－江戸川水門－篠崎公園(昼食・WC)－善養寺影向(ようごう)の松－市川橋－市川駅(解散)

参加者：香高、塩塚、小林、稲川薫、坂上、吉田、杉本、7名

⑦ 10月19日(月)9:30～14:00 海老川から花見川 天候 曇後雨

コース：大神宮下駅－船橋地名由来の地－船橋港親水公園(WC)－南船橋駅前－谷津干潟－秋津運動公園(WC)－香澄公園(昼食・WC)－運転免許センター前－海浜幕張駅 (雨天のため当初予定変更し海浜幕張駅で解散した。)

参加者：塩塚、高橋琢、坂上、杉本、4名 (杉本正夫)

支部山行の予定

☆山行の心得 リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

連れて行ってもらうのではなく自主的な意識を持ち参加してください。リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来てください。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも行うようにしてください。

リーダーの連絡先	
杉本正夫	支部だよりを参照
松田宏也	支部だよりを参照
三木雄三	支部だよりを参照
三田 博	支部だよりを参照
山口文嗣	支部だよりを参照
山田紀夫	支部だよりを参照
小川和敏	支部だよりを参照
三品京子	支部だよりを参照
山本哲夫	支部だよりを参照

難易度

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難易度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。)

個人山行も計画書提出を

; 送信先 chiba_jac@yahoo.co.jp #を@に替えて

日程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
1月9日(土)	高宕山と石射太郎	B	高宕観音に初詣	山田	12月28日(月)
1月17日(日)	花見川・ポートタワー	W	花見川河口からポートタワーまで	杉本	1月9日(土)
1月17日(日)	房総の沢③	C	志組川から高宕山・沢同好会	三田	12月26日(土)
1月23日(土)	大野山	A	冬の富士山を見に。JR 谷峨駅集合	三田	1月16日(土)
1月23日(土)	六ツ石山	B	奥多摩三大急登をゆっくりと	小川	1月10日(日)
1月23日(土)	谷津干潟・茜浜・花見川	W	10/19 雨天中断のリベンジ	杉本	1月16日(土)
1月24日(日)～25日	日光光徳牧場		クロカンスキー (装備レンタル有)	松田	1月7日(木)

日本山岳会千葉支部

日程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
2月6日(土)	大岳山	C	奥多摩駅から鋸尾根	小川	1月20日(水)
2月6日(土)	日の出山・北尾根	C	急登コース。小川隊と合えるか？	三田	1月20日(水)
2月11日(木)～14日	グレンデスキーと登山		高峰WV小屋ベース。スキーと登山 両方楽しむ。どちらか参加もOK	松田	1月11日(月)
2月14日(日)	昭和の森一周	W	昭和の森で梅見をして一周します	杉本	2月7日(日)
2月20日(土)	富津・白狐峠	A	フキノトウ探しに白狐集落から	三田	2月10日(水)
2月20日(土)	塔ノ岳	C	前回に続き体力測定登山	山田	2月10日(水)
2月23日(火)～24日	八ヶ岳・天狗岳	D	雪山・黒百合ヒュッテ泊	三田	1月10日(日)
2月27日(土)	江戸川河口まで	W	河津桜見ながら土手沿いに	杉本	2月20日(土)
2月27日(土)	陣馬・景信山	B	陣馬山から景信山、奥高尾ハイク	三品	2月18日(木)
3月6日(土)	房総の沢④	C	鴨川のセーナ沢探索・沢同好会	三田	3月1日(月)
3月6日(土)～7日	伊豆大島	B	伊豆諸島の山旅・三原山と椿まつり	山田	2月15日(月)
3月12日(金)～13日	谷川岳	D	土合山の家に宿泊	三田	2月12日(金)
3月13日(土)	本仁田山	C	奥多摩三大急登をゆっくりと	小川	2月20日(土)
3月21日(日)	江戸川・野田市内	W	昨年中止したコースです	杉本	3月14日(日)
3月25日(木)	三頭山	A	都民の森から周回(車1台5名)	山本	3月10日(水)
3月28日(日)	高尾山	A	自然学・東京近郊の奇跡の山巡検	三木	3月18日(木)
3月29日(月)	おゆみ野公園巡り	W	一面お花見だらけのコースです	杉本	3月21日(日)
4月3日(土)	大堀川を歩く	W	大堀川の桜を見られるかな？	杉本	3月27日(土)
4月3日(土)～4日	沼津アルプスと愛鷹山	B	桜と海と富士山	松田	2月28日(日)
4月10日(土)	鋸山	A	自然学・海底から現れた山	三木	4月5日(月)
4月10日(土)	秩父・養山	A	桜の名所・美の山公園	小川	4月3日(土)
4月17日(土)～18日	4支部懇談会		群馬支部主催(榛名山)		
4月22日(木)～24日	会津駒と窓明山	D	残雪、ワカンが必要。民宿2泊	三田	2月28日(日)
4月24日(土)	青葉の森公園	W	八重桜が見事	杉本	4月17日(土)
4月29日(木)～1日	尾瀬至仏山	D	残雪の尾瀬	松田	3月31日(水)
5月1日(土)	国分川を歩く	W	こいのぼりが見られるか？	杉本	4月24日(土)
4月30日(金)～3日	涸沢・北穂高	E	テント泊 雪山	山本	4月10日(土)
5月8日(土)	支部総会				
5月15日(土)	道志・西棚ノ沢	C	沢登り入門。鳥ノ胸山まで登ります	三田	5月5日(水)
5月16日(日)～17日	袈裟丸山と日光の山	B	アカヤシオと新緑の山	松田	4月18日(日)
5月21日(金)	権現道と御成り街道	W	両者の繋がりを探る	杉本	5月15日(土)

日程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
5 月 22 日(土)	岩殿山と猿橋溶岩	A	昨年中止した自然学・地層巡検	三木	5 月 12 日(水)
5 月 28 日(金)～29 日	伊豆・天城山	B	シャクナゲ時期に マイカー利用	小川	5 月 7 日(金)

●山行の申込み 申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。また山岳保険には必ず加入してきてください。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

お知らせ

《事務局から》

【役員会報告】

○9月報告 9月16日 ヨシキYYルーム（松田、山口、上村、小川、三品、山本、三田）

◇山行・行事報告 8/10 山の日のつどい、7/12～22 北海道の山、7/24 大菩薩嶺、8/3～5 尾瀬、8/4～8 黒部周遊、8/21～22 宝剣・三ノ沢岳、8/22～24 四阿山ほか、8/29～30 編笠山、9/5～7 霧ヶ峰・北八ヶ岳、9/6 手賀沼 W、9/11～12 両神山、9/13 手賀沼 W

◇予定 大水上山など ◇支部だより 10月号報告 ◇忘年山行

○10月報告 10月21日 ヨシキYYルーム（松田、山口、上村、小川、三品、山本、甘楽、三田）

◇山行・行事報告 9/19～21 大水上山、9/20 成田空港から新勝寺、10/3 顔振峠、10/4 行徳・常夜灯公園ほか、10/10～12 高峰山・黒斑山周辺、10/11～12 大倉深沢、10/19 海老川から花見川、10/18～19 スケッチクラブ・西沢溪谷

◇予定 佐渡ヶ島ほか ◇忘年山行について ◇郡界尾根報告書の販売方策について ◇支部だより変更について 意見交換

○11月報告 11月18日 ヨシキYYルーム（松田、山口、上村、小川、三品、山本、三田）

◇山行・行事報告 10/22～26 佐渡、10/23～26 信越トレイル、11/3 黒川鶏冠山、11/8 航空博物館から新勝寺、11/8～9 浅間隠山と鼻曲山、11/13～15 八丈・三宅島、11/14 三浦・大楠山

◇予定 筑波山ほか ◇JAC120 周年記念行事「古道調査」取り組みについて

●会員の動向

《入会・会友》

小林 Y 子さん 東京都練馬区

《退会》

山田 K さん 越後支部へ転出

●群馬・榛名湖で四支部懇談会

第14回四支部懇談会が群馬支部主催で4月17・18日に、榛名湖周辺で開かれます。17日は講演と懇親会、18日は、掃部ヶ岳登山・榛名湖自然観察・伊香保温泉観光の3コースです。コロナ禍による小規模開催のため人数の調整があります。詳細および参加希望は事務局長・三田まで。連絡先メール 支部だよりを参照

●2021年度支部総会のお知らせ

2021年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において 2020年度事業及び決算報告、2021年度事業及び収支予算計画など審議する予定です。議案等関係資料は4月に郵送いたします。

日時 2021年5月8日（土）午前9：15～

場所 千葉市文化センター 9F 会議室

〒260-0013 千葉市中央区中央2丁目5番1号 TEL：043-224-8211

総 会 9：30～10：30 記念講演 10：40～11：50 講演者未定



編集後記；編集2回目です。基本的に前号の体裁を踏襲しています。今後、皆さまのご意見を戴きながら、より良い「支部だより」にしていきたいと考えています。宜しく願いいたします。

津田沼のヨシキスポーツさんには役員会会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。（小川和敏）

三陽メディア株式会社